

各 位

平成 13年 9月 3日

会 社 名 株式会社 安川電機
 コード番号 6506
 問 合 せ 先 管理本部 総務グループ長
 赤木 博
 TEL (093) 645 - 8801

業績予想の修正に関するお知らせ

平成13年5月11日の決算発表時の平成14年3月期中間期ならびに通期の単独・連結の業績予想を下記のとおり修正します。

記

1. 平成14年3月期単独中間期業績予想数値の修正(平成13年3月21日～平成13年9月20日)

(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成13年5月11日発表)	63,000	400	△ 900
今回修正予想(B)	59,000	△ 2,300	△ 2,900
増減額(B-A)	△ 4,000	△ 2,700	△ 2,000
増減率	△ 6.3	—————	—————
前期(平成12年9月中間期)実績	72,455	721	△ 853

2. 平成14年 3月期単独通期業績予想数値の修正(平成13年3月21日～平成14年3月20日)

(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成13年5月11日発表)	144,500	5,000	1,000
今回修正予想(B)	125,500	△ 1,000	△ 2,500
増減額(B-A)	△ 19,000	△ 6,000	△ 3,500
増減率	△ 13.1	—————	—————
前期(平成13年 3月期)実績	158,944	6,019	1,099

3. 平成14年 3月期連結中間期業績予想数値の修正(平成13年3月21日～平成13年9月20日)

(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成13年5月11日発表)	115,000	1,500	△ 1,500
今回修正予想(B)	111,000	△ 2,500	△ 5,000
増減額(B-A)	△ 4,000	△ 4,000	△ 3,500
増減率	△ 3.5	—————	—————
前期(平成12年9月中間期)実績	—————	—————	—————

4. 平成14年3月期連結通期業績予想数値の修正(平成13年3月21日～平成14年3月20日)

(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成13年5月11日発表)	260,000	10,500	2,500
今回修正予想(B)	235,000	2,500	△ 2,500
増減額(B-A)	△ 25,000	△ 8,000	△ 5,000
増減率	△ 9.6	△ 76.2	—————
前期(平成13年3月期)実績	266,068	11,879	3,319

5. 理 由

中核部門であるメカトロ部門のうち、付加価値の高い半導体関連業界向けACサーボおよびクリーン・真空内搬送システムの需要が減退しており、売上高は前回発表予想を下回る見込みです。なお、メカトロ部門のうち、自動車および液晶等関連業界向け産業用ロボットは堅調です。

損益面でも、固定費の一層の削減に努めておりますが、競争激化による価格下落や付加価値の高い商品の売上高の減少により前回発表予想を下回る見込みです。

以上

平成 13 年 9 月 3 日
株式会社安川電機

当社グループでは、世界規模での IT 投資抑制による半導体関連業界向けの需要減退に伴い、本日、平成 13 年度業績予想の下方修正を発表いたしました。

従来から、平成 14 年度を目標年度とする中期経営計画“Win21”に基づく各種の構造改革を実行し、着実に成果をあげてまいりましたが、この厳しい状況に鑑み、今回、一段の構造改革の実施とスピードアップを行うこととし、下記のと通りの施策を展開してまいります。

記

I 平成 13 年度業績下方修正に対応した施策

平成 13 年度売上高減少に対応するため、固定費の徹底的な削減を実施します。

II 中期的な構造改善施策

中期経営計画“Win21”の 4 つの構造改革に基づく以下の具体的施策を実行します。

1. 「事業構造改革」、「企業構造改革」に係わる施策

(1) コーポレートルラボの設置

平成 13 年度下期から、既存の研究開発部門を母体に、「コーポレートルラボ」(戦略的研究開発部門)を設置します。

「コーポレートルラボ」は、継続するヒット商品技術の開発と次世代事業の創出を担い、市場価値をベースにプロフィットセンターとして付加価値の高い組織に改革します。

(2) スーパーSBU 体制の構築

分社経営をにらみ、戦略的事業単位であるスーパーSBU について、既に、「モーションコントロールスーパーSBU」、「システムエンジニアリング スーパーSBU」の 2 つについては構築を完了していますが、平成 13 年度下期から、自動車および液晶等関連業界向けの産業用ロボット事業と半導体製造装置業界向けの超メカトロ事業を統合することにより、「ロボティクス・オートメーションスーパーSBU」体制を構築します。

「ロボティクス・オートメーション スーパーSBU」では、グローバルな製品戦略と他社との差別化により、圧倒的なシェア確立を図ります。

(3) ソリューションセンターの設置

本年11月末に当社東京工場(埼玉県入間市)内に竣工します。

このセンターには、お客様の機械性能を最大限に引き出すため、当社のメカトロ技術を駆使して実証し、さらにはお客様へ技術的提案ができるような「トータルシステム評価機能」を設置します。

この機能を、IT技術(情報技術)の活用により、ネットワークを通じてグローバルに提供して商品の付加価値をさらに高めます。

あわせて、お客様との接点を充実するための「ショールーム」、「コールセンター機能」、「コンサルティング機能」などを設置します。

これにより、さらなる販売拡大を行います。

(4) 少数精鋭体制による戦略本社の確立およびサポート機能の集約化

2. 「経営構造改革」に係わる施策

(1) 新人事制度の開始

平成 13 年度下期から、人事制度を、成果主義および能力主義の徹底を基本とした制度へ移行します。

3. 「財務構造改善」に係わる施策

(1) 海外生産の拡大、生産委託の拡大により、売上量の変動に対応できる柔軟な生産体制の構築

- ・既存の海外生産を拡大するとともに、アジア地域での新たな海外生産開始
- ・部品、材料について、海外からの調達拡大
- ・生産委託の拡大

(2) ERP および サプライチェーン・マネジメントシステム導入による棚卸資産削減および抜本的生産性向上

(3) 人員を削減し、スリム化を図る

- ・平成 14 年度末までに、グループ全体人員(平成 13 年度期初で 9,000 名)を 1,000 名削減します。

以 上